

平成 2 4 年度 委員会行政視察実施報告書

委員会名	総務文教委員会
参加委員	井沢信章 池田総一郎 半田大介 土屋 亮 西沢逸郎 久保田由夫 下村 栄 深井武文
	委員長、 副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

平成 2 6 年秋にオープンを予定している「上田市交流・文化施設」が 9 月に着工した。今後、この施設をより多くの市民の皆さんに使っていただけるように、館の運営や自主事業など、ソフト面の充実をいかに行うかに研究テーマがシフトした。今回、水戸芸術館の視察を通じて上田市が吸収できるものがないか研究した。

2 実施概要

実施日時	視 察 先	水戸芸術館														
平成 24 年 8 月 21 日 (火) 13 時 ~ 16 時	担当部局	水戸市芸術振興財団														
視察事業名	水戸芸術館の運営・企画について															
報告内容	<p><u>1 視察先の概要</u></p> <p>人口は約 2 7 万人の水戸市は徳川御三家の城下町として繁栄。日本三名園の「偕楽園」の梅園は有名。</p> <p>水戸芸術館の概要は次のとおり。</p> <p>-----</p> <p>開館：平成 2 年 3 月 2 2 日</p> <p>運営主体：水戸市芸術振興財団</p> <p>施設：</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>コンサートホール</td> <td>620 ~ 680 席</td> </tr> <tr> <td>劇場</td> <td>472 ~ 636 席</td> </tr> <tr> <td>リハーサル室</td> <td>3 室</td> </tr> <tr> <td>展示室</td> <td>9 室 (壁面長：285m)</td> </tr> <tr> <td>会議場</td> <td>78 席</td> </tr> <tr> <td>塔</td> <td>100m (展望室は地上 86.4m)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">レストラン・ミュージアムショップ</td> </tr> </table>		コンサートホール	620 ~ 680 席	劇場	472 ~ 636 席	リハーサル室	3 室	展示室	9 室 (壁面長：285m)	会議場	78 席	塔	100m (展望室は地上 86.4m)	レストラン・ミュージアムショップ	
コンサートホール	620 ~ 680 席															
劇場	472 ~ 636 席															
リハーサル室	3 室															
展示室	9 室 (壁面長：285m)															
会議場	78 席															
塔	100m (展望室は地上 86.4m)															
レストラン・ミュージアムショップ																

総事業費：約103億5600万円
(芸術館本体：70億・その他：33億5600万)

建築主：水戸市 管理運営主体は公益財団法人水戸市芸術振興財団
(理事長は森英恵氏)へ管理運営を委託。

職員数： 役員 1人
事務局(総務・広報・経理・舞台技術)19人
学芸(音楽・芸術・美術)15人
嘱託職員 6人
臨時職員 46人

2 視察先の特徴

この芸術館は水戸市制100周年を記念して建てられたものである。建設に当たっては、「まちづくり事業債」を活用したことから、市の担当部局は教育委員会ではなく、地域振興課が担当している。

このほか、この施設の特徴は次のとおり。

音楽・演劇・美術の専用施設の利用を館独自のプロデュースによって企画運営している。したがって、貸館事業はやっていない。

館から発信する芸術文化活動を象徴するものとして、専属楽団「水戸室内管弦楽団」(顧問は小沢征爾氏)・「新ダヴィッド同盟」・専属劇団「ACM」などを編成している。

水戸市は芸術館の管理運営に一般会計予算の1%を充てるという方針を立てて、その活動を保証している。H24年度は7億3000万円を交付した。

財団の平成24年度の経常収益は約9億3000万円。(この内、水戸市からの受取補助金が7億3000万円ほど)経常費用は9億8000万円。

劇団のアウトリーチを行っており、3年に1回程度、子どもたちは自分たちの学校で観劇できる。

3 視察事項について

今回の視察の中で、常務理事から館運営に関するいくつかの示唆をいただいた。上田市交流・文化施設のソフト面において随分参考になると思うので、以下紹介したい。

	<p>開館2年前には館長をはじめ専門スタッフの陣容を決めた。館長は芸術・音楽・美術のそれぞれの分野にある程度精通した方に依頼するのが望ましい。また、経営（お金のこと）がわかる方ならさらにいい。</p> <p>専門スタッフ（学芸員）はしっかり配置すべき。これは、発信力・企画力において大変戦力になる。したがって、外部から専門家を連れてくるのが望ましい。</p> <p>今、演劇専門のスタッフは数が少なく、なかなか呼び込めない。一つの方法として、大学へ問い合わせることを薦める。（芸術学部をもつ大学）</p> <p>また、専門スタッフには細かく指示しないほうがいい。制約が多いと彼らはやる気を失うことが多い。</p> <p>施設を教育活動に活用してもらおう。たとえば、市内の小中学校の生徒に鑑賞会を企画してみるとか、子どもの作品の展示会を企画するなど。</p>
<p>考 察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)</p>	<p>上田市では交流・文化施設の建設が始まり、これから、いかにこの施設を活用し、運用していくかというところに議論がシフトしてきた。ランニングコストの圧縮は一つの課題ではあるが、水戸市のように、年間予算の1%を美術館の運営に充てるという考え方も聞く中で、上田市としてこの交流・文化施設をどのように位置づけるかによって、財政負担の多寡が決まるのではないだろうか。</p> <p>また、上田市の交流文化施設のほかの施設との差別化を図るためにはどういったことが必要か、そのソフトをいかに構築するかが大事なことになりそうだ。</p> <p>美術館には「子どもアトリエ」をつくる計画があるが、そのアトリエをどのように運用するか。また、アウトリーチの方法はどうするのか。美術館の差別化を図るためには、アーティストの育成に力を入れるのか、あるいは、有力な美術館とタイアップして有名な絵画を借り入れるのか。</p> <p>いずれにしても、今後、こうした方面に卓越した専門家を呼んで企画をじっくり練り上げることが求められよう。</p>



水戸芸術館内での視察



平成 2 4 年度 委員会行政視察実施報告書

委員会名	総務文教委員会
参加委員	井沢信章 池田総一郎 半田大介 土屋 亮 西沢逸郎 久保田由夫 下村 栄 深井武文
	委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

平成 26 年秋オープンを予定している『上田市交流・文化施設』に関して、今後課題となる館の運営について、先進事例であり、実績と成果を上げている福島県いわき市のいわき芸術文化交流館アリオスを視察研究した。

2 実施概要

実施日時	視 察 先	いわき芸術文化交流館アリオス
平成 24 年 8 月 22 日(水) 9 時 30 分～11 時 30 分	担当部局	市民協働部
視察事業名	いわき芸術文化交流館アリオスの施設概要、運営状況、自主事業の取り組みについて	
報告内容	<p>1 視察先の概要 福島県いわき市は、面積 1230 k m²を有し、太平洋側『浜通り』に位置する人口約 33 万 4 千人の中核市であり、1966 年 14 市町村が合併し、現在のいわき市となった。</p> <p>2 視察先の特徴 (1)いわき芸術文化交流館アリオスの施設概要 JR いわき駅から徒歩 15 分、常磐・磐越自動車道いわき中央 IC から車で 10 分。市役所本庁舎や国・県の合同庁舎などが立ち並ぶ利便性の高い場所に立地。グランドオープンは平成 21 年 5 月 2 日 施設正面には一体的に整備された平中央公園があり、1F・2F から施設内に直接アプローチすることができる。 敷地面積:約 11,228 m²、延床面積:約 27,547 m²(地下 2 階・地上 6 階) 建物の概要：本館 大ホール(通常 1705 席 最大 1840 席)、中劇場(最大 687 席)、小劇場(最大 233 席)、大・中リハーサル室、スタジオ(4 部屋)カスケード(交流ロビー) カンティーン、キッズルーム、レストラン、ショップ(3 店舗)、カフェ、総合案内 別館(旧音楽館) 音楽小ホール(200 席)、小練習室(4 部屋)、中練習室(2 部屋)、稽古場(4 部屋)</p>	

(2) (通称)いわき方式PFI事業

施設的设计、建設、管理運営を民間の資金やノウハウを活用して実施するコンソーシアム(連合体)によるPFI方式で行い15年間の維持管理コストを含め、費用の25%(52億円)の縮減効果を上げる。

但し、施設運営については当初からPFI事業の枠から外し、市直営であり、市長部局・市民協働部が所管している。

(3)事業方針

鑑賞・創造系事業、普及・アウトリーチ系事業、育成・支援系事業の3本柱を基に、自主事業プログラムを展開している。

(4)東日本大震災の影響

3.11東日本大震災では、いわき市も震度6弱を記録、沿岸の小名浜港などでは津波被害に遭う。アリオスは大ホールを中心に避難所として3月~5月まで約300人を受け入れ、別館は4月中旬から市役所臨時庁舎になり、11月1日に全館リニューアルオープンした。



3 視察事項について

館の施設概要、運営状況及び自主事業の取り組みを中心に視察し、視察先との意見交換を行う。

考 察

(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)

館の施設概要は上記2.視察先の特徴に記載。

1. 運営状況

(1)建設・維持管理、事業運営

PFI事業分として、初期投資(事業費の設計、建設費)と維持管理費で全体事業費181億円を事業期間15年間(機材等の耐用年数で換算)で延べ払い、1年当たり約12億円をPFI事業者を支払う。

また、平成13年の建設整備懇談会よりワーキングチームが始まり、特に平成15年からは館運営について人材招聘ネットワークが広がる。

市直営の事業運営費分として、平成24年度予算は約4億9千万円であり、内訳は自主公演事業、芸術普及事業経費、施設光熱費、スタッフ人件費、事務費。このうち、施設利用料、自主公演チケット売上、国からの助成金等による自主財源は約9400万円を見込む。

主なホールの特徴

・大ホール・・主に音楽ホールとして、吹奏楽が盛んだったこともあり、吹奏楽、合唱の全国大会ができるホールにしたいという願いがあった。国内最高水準の音響性能を持つ、シューボックス型 3 層バルコニー形式のホールで、音が客席全体に均一に届くように設計され、ホール全体が楽器のように鳴り響く。音響反射板は可動式なので、音楽、演劇、ダンス、古典芸能など様々なジャンルの上演が可能。

・中劇場・・国内有数の舞台装置を持つ、可変型 2 層バルコニー形式のホールで、効率よく多様な舞台形式に対応でき、建築と舞台機構が一体となって構成される劇場空間をつくる。国内初となる「移動式縦型客席ユニット」と「移動式額縁ユニット」を導入し、ホバークラフトの原理を応用し、ユニットの下に高圧の空気を送り込んで浮かせることによって少人数で転換が可能。演劇や、ダンス、能などの古典芸能、コンサートといった様々なステージプランに応じて舞台、客席面の形式を変動できる。

(2)稼働率及び入場者数

平成 23 年度は震災の影響による休館期間があったものの、稼働率は開館以来 年平均、大ホール 78.1%、中劇場 63.4%、小劇場 57.4%、音楽小ホール 60%。入場者数は平成 23 年度以外、年間、大ホール約 14 万人、中劇場約 2 万 7 千人、小劇場約 1 万 1 千人、音楽小ホール 1 万 4 千人。

(3)専門スタッフについて

館長は市職員、その他施設に関わる市職員は 10 人であるが、ホール、劇場、広報等の企画・運営スタッフはすべて全国から招聘・公募した専門スタッフであり、支配人（副館長）以下 34 名。

(4)その他

キッズルーム(託児施設)があり、常時、保育士がいる。

2. 自主事業の取り組み

自主事業は入場率が高い。それには、広報の専門家をスタッフに迎え市民のニーズと受け入れられる水準に合わせた事業計画を展開している。更にアートマネジメント・・アーティストと市民との間に入り、橋渡し役になる劇場運営のプロが充実している。

主な自主事業の特徴

(1)鑑賞公演・普及公演

鑑賞公演では、東京で行われている作品を単に招聘するのではなく、アーティスト一人ひとりとの丁寧なお付き合いを通じて、いわきの土地の魅力が作品づくり。

ワークショップ

普段は舞台の上でしか会うことのないトップレベルのアーティストを講師に迎え、長い時間をともに過ごすことによって、単に技術を習得するだけでなく、そのアーティストの視点や方法論を一緒に体感できる機会を設ける。

(2)市民参加型公演

公募で集まった市民とプロのアーティストが一週間～数ヶ月に及ぶ稽古をじっくりと重ね、一つの作品を創り上げる事業。

(3)おでかけアリオス(アウトリーチ事業)

市域が広いいわきにおいて、施設が立地する平地区から離れた場所に暮らす市民にとってアリオスが「私には関係ない場所」にならないよう、各地域の学校、公民館、お寺、病院、福祉施設などにアーティストとともに出向く出張型の事業。年間40回、小中学校30校で実施しているが、大人数では効果がないので1クラスでいねいに実施。

(4)マーケティングプロジェクト

芸術に興味のない市民も気軽に集まれる「居場所」でありたいと考えるアリオスは、子どもたちが楽しみながら社会のしくみを学ぶことができるイベントの開催や、街なかを使って「何かやってみたい」という人々が参加できる枠組みづくり。

(5)広報・パブリシティ

いわきアリオスの広報紙「Alios paper」、季節ごとに自主事業を知らせる「シーズン・ポスター」、WEBサイト・メルマガ・DMサービス、FM番組「Alios style」などを通じ、施設の魅力や事業の内容、そこに集う市民の様子を幅広く伝える。

3. 考察

(1)運営状況について

- ・今後の維持管理費について工夫が更に検討が必要ではないか。
- ・プロデューサーとしての館長、専門スタッフの充実

前日の水戸芸術館視察と共通しているが、企画・運営をする際に専門スタッフの力量が発揮され、そのネットワークが館運営を充実させる。また、全国からの招聘・公募が有効的である。

- ・教育委員会ではなく、市長部局が所管(水戸芸術館と共通)。
- ・キッズルームを設置することで、入館者の広がりが期待できる。
- ・館長いわく「メガ級の劇場」である世界有数の音響設備、劇場の照明設備など、アーティストや市民が公演、演奏をしたくなるホールであること。

(2)自主事業の取り組みについて

いわき市民が古くから力を入れ、活発だった演劇鑑賞会、吹奏楽の演奏など、市(地域)独自で培ってきた文化芸術力を発揮できるステージの提供や人材育成を自主事業を通じて実施していること。さらに自主事業が高い入場率を上げている広報事業(年間3000万円の事業費)と市民ニーズと受け入れられる水準についてしっかりマーケティングが行われている点は今後の館運営では大きなポイントとなる。

以上について考察し、総務文教委員会では今年度内に行う交流文化施設の運営に関する提言のための参考としたい。

平成24年度 委員会行政視察実施報告書

委員会名	総務文教委員会
参加委員	井沢信章 池田総一郎 半田大介 土屋 亮 西沢逸郎 久保田由夫 下村 栄 深井武文 委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

上田市においても「わがまち魅力アップ応援事業」を展開している。地域自治組織の成熟を目指す観点から大崎市の「ステップアップ・チャレンジ事業交付金事業」の概要を学び今後の上田市政に生かしたい。

2 実施概要

実施日時	視察先	宮城県大崎市
平成24年8月23日(木) 10時～11時30分	担当部局	まちづくり推進課
視察事業名	ステップアップ・チャレンジ事業交付金事業	
報告内容	<p>1 視察先の概要 大崎市は仙台市の北に位置し人口13万5千人の市である。日本有数の穀倉地帯を形成しササニシキのふるさととして有名。</p> <p>2 視察先の特徴 農業産出額は東北地方でトップクラス。銘柄米のササニシキ、ひとめぼれの誕生の地でもある。</p>  <p>市議会のある大崎市役所三本木庁舎内</p>	



大崎市議会の議場

3 視察事項について

地域自治組織の成熟度や活動内容に応じて利用できる仕組みとして従来の「基礎交付金」と「チャレンジ事業交付金」に加え新たに「ステップアップ事業交付金」を新設した。その取り組みを視察し成果と課題を検証する。

1 事業の概要

ステップアップ事業交付金

- ・ 1団体当たり20万円以内(上限20万円)
- ・ 交付率 事業費の80%
- ・ 2回までの交付が可能であるが交付額の上限は20万円

チャレンジ事業交付金

- ・ 1団体当たり100万円以内(上限100万円)
- ・ 交付率 事業費の80%
- ・ 2回までの交付が可能であるが交付額の上限は20万円

2 事業の特徴

高崎経済大学の桜井教授が地域自治成熟度の高くない地域に対し直接、出向いて指導、アドバイスをしている。交付金の原資として合併特例債を積み立てている。申請、審査の時期を年間複数回、設けている。

3 市政に活かせると思われる事項

外部の大学教授が直接地域に出向いて指導、アドバイスをすることにより提案内容がより充実する。このことは上田市の「わがまち魅力アップ応援事業」でも大いに参考とするべきであると感じた。

市の職員が地域の中で自分達が何かをしないとイケないという強い意識をもって活動に協力している。このことも今後の上田市において大事な見習うべきことだと感じた。

考 察

(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)

